

Olympic  
Movement

<平成27年度 ハローオリピズム事業>

# オリンピック教室

実施報告書

北区立稲付中学校



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 協 力** : 公益財団法人 JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成27年4月～平成28年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 30校程度
- 地 域** : 関東近郊及びJOCパートナー都市の中学校を基本とする
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
 ※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



## 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動  
（作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場した経験等を通して、国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を自身の体験をもとに分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に生かせるような学習内容

## 座学の時間

挨拶（5分）

自己紹介（5分）

オリンピックの話（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



座学での学習内容の  
確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験  
に基づく「オリンピックの  
価値」等について話す



グループ（個人）ワーク  
発表も行う



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます





- 期 日 : 平成28年1月29日 (金)
- 場 所 : 北区立稲付中学校
- ク ラ ス : 2年3組 (39名) ・2組 (39名)
- オリンピック : 池田 信太郎 先生 (バドミントン)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限・3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・池田先生から簡単に自己紹介をした後、パネルを用いてオリンピックシンボル及びオリンピックバリューについて説明し、バリューを頭に入れながら運動の時間ではチームで1つの目標を達成することを目指して取り組んでほしいと伝える。

2. 準備体操



・両手間隔に広がって準備体操をした後、ダイナミックストレッチを実施。



### 3. 主運動



#### ボール運びリレー

- ・6班に分かれて2人1組になり、バドミントンのラケットを用いてリレーを行う。
- ・2本のラケットの間にシャトルや風船等を挟み、ステージ前からスタート、反対側の壁付近に置いたマーカーを1周して戻ってくる。計4往復する速さを競う。
- ・各回終了後に作戦タイムを設け、池田先生から、ペアとコミュニケーションをとり、呼吸を合わせて1つの目標を達成することを意識するようアドバイスを送る。

### 4. まとめ



- ・順位をつけたが、チームで話し合って回答を出し、一生懸命実践したことが重要で、それがオリンピックバリューにつながっていると話す。
- ・座学の時には運動の時間の取り組みとオリンピックバリューとのつながりを考えようと予告。
- ・ベストを尽くして取り組んだことを称えて全員で拍手し、運動の時間を終了。





■授業のながれ：座学の時間（平成27年1月29日（金）2時限・4限目）

1. 自己紹介（映像、写真 etc）と授業の目的を確認



- ・運動の時間を振り返って、オリンピックバリューとのつながりを考えようと授業の目的を確認し、オリンピックと学校生活を結び付け、日常生活にどう活かせるかを考えてほしいと話す。
- ・映像を見せながら競技や自身の経験等を紹介。

2. オリンピックの価値を伝える



- ・池田先生の経験を交えながらオリンピックバリューについて、エクセレンス＝ベストを尽くすこと、努力する力、フレンドシップ＝友人を大切にすること、相手と合わせること、リスペクト＝自分を支えてくれる人への感謝の気持ちと説明。
- ・運動の時間を振り返り、オリンピックバリューを実践できていたことを伝える。



### 3. グループワーク



発問：自身の日常生活に当てはまるオリンピックバリューを考えてみよう。

発表：エクセレンス＝最後まで諦めない、練習のための練習をしない、小さな目標を立てて大きな目標のために全力を尽くす  
 フレンドシップ＝コミュニケーションをとって相手を思いやる、相手の得意なことと苦手なことを理解しあう、仲間を思いやる  
 リスペクト＝家族や目上の人に敬意を払い、感謝の気持ちを表す、試合の相手に感謝する

### 4. まとめ



- ・オリンピックバリューに当てはまる行動は、目標を叶えるために重要である。オリンピックバリューを忘れずにチャレンジすれば、楽しさも悔しさも味わうことができ、必ず人生がよりよく、豊かになるということ覚えてほしいと話す。
- ・オリンピックは決して遠い存在ではなく、オリンピックバリューは日常生活でも実践できることが多いと改めて伝え、授業を終えた。





- 期 日 : 平成28年1月29日 (金)
- 場 所 : 北区立稲付中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (40名)
- オリンピック : 楠田 香穂里 先生 (バスケットボール)
- 授業のながれ : 運動の時間 (5時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



・楠田先生から簡単な自己紹介をした後、運動の時間では「楽しくチャレンジすること」を約束。

## 2. 準備体操



・2人1組になって、バスケットボールを用いたウォーミングアップを実施した後、ボール運びゲームを実施。



### 3. 主運動



#### ①ボールリレー

・ステージ前に各班縦1列に並び、ボールを両手で持って頭の上から後ろの人へ手渡しする。ボールを渡し終えた人は列の最後尾に回り再び参加、スタートラインから20mほど先に置かれたマーカーをボールが越えたら座り、全員が着席するまでのタイムを競う。

#### ②デモンストレーション

・バスケットボール部に所属する男子生徒2名とシュート対決を実施。

### 4. まとめ



・座学ではオリンピックやバスケットボール競技について、楠田先生の経験や競技の映像を見ながら説明すると予告して授業終了。





■授業のながれ：座学の時間（平成27年1月29日（金）6限目）

1. 自己紹介（映像、写真 etc）と授業の目的を確認



・映像を見せながら、当時の心境や試合の様子について説明。

2. オリンピックの価値を伝える



・オリンピックシンボルの意味を説明し、オリンピックが平和の象徴と言われる由縁を説明し、オリンピックバリューの意味について説明。  
 ・エクセレンス＝努力を惜まないこと、最善を尽くすこと、フレンドシップ＝チームの力、リスペクト＝尊敬する気持ち





### 3. グループワーク



発問：運動の時間や普段の生活を振り返って、オリンピックバリューにまつわる体験談を書き出してみよう。

発表：フレンドシップ＝仲間と協力してひとつのことを成し遂げる、仲間を思いやり大切にする

リスペクト＝感謝の気持ちを表す、お互いを尊重しあう

### 4. まとめ



・オリンピックに出場したからすごいのではなく、一生懸命努力した過程が大切であり、このことはオリンピック以外にも当てはまる。夢ばかり追うのではなく、大きな目標に向かって、こつこつ努力し、挫折しても何度も挑戦することで、必ず夢を叶えることができる。もし一人では越えられないことがあれば、みんなで協力して挑戦してほしいと伝える。

・2020年には東京でオリンピックが開催されるため、選手として出場するだけではなく、ボランティアとして関わる等、オリンピックを体験してほしいと話し、授業終了。





■ 集 合 写 真

2年3組



2年2組







■ 集 合 写 真

2年1組



■ 記 念 品 贈 呈



■ 証 明 書 贈 呈

